

東北大学災害科学国際研究所・東京海上日動共催セミナーを開催しました(2012/10/4)

場所：仙台東京海上日動ビル5階
テーマ：地震津波研究の最前線・津波防災

10月4日(木)、仙台東京海上日動ビルにおいて、「東北大学災害科学国際研究所・東京海上日動共催セミナー～東日本大震災を踏まえた地震・津波リスクを考える～」を開催し、地元企業の方など約90名にご来場いただきました。災害科学国際研究所からは、今村文彦教授(災害リスク研究部門)、保田真理助手(災害リスク研究部門)、サッパシー・アナワット准教授(寄附研究部門)、安倍祥助手(寄附研究部門)、福谷陽助手(寄附研究部門)が講演を行いました。

第1部では、今村教授が『地震・津波研究の研究最前線』と題して講演しました。災害にはサイクル(発災・復旧・復興・平穏期)があることを説明した後、東日本大震災を例として、発災の前後で具体的に何が起きるのかを示すと共に、地震・津波研究の最新の研究成果などについても触れました。保田真理助手は、来たる災害への備えに役立つ防災グッズの重要性等について話しました。寄附研究部門と東京海上日動は、防災クリアファイルを共同して製作し、当日の参加者に配布しました。

第2部では、安倍祥助手が『津波からの避難・実態と課題』、サッパシー・アナワット准教授が『津波リスク(人的被害・建物被害)評価の技術』、福谷陽助手が『津波ハザード評価の高度化』と題し、それぞれ寄附研究部門における最新の研究内容について講演しました。

第3部では、リスクコンサルタントである尾崎洋二氏が『防災・BCP対策は避難が命』と題し、事業者が実施すべきこれからの防災・BCP対策を多角的見地から分かり易く論じました。

最後の質疑応答では、自身の東日本大震災での体験談を基に、災害科学国際研究所から震災の教訓を世界へ発信して欲しいとの期待を寄せる意見が複数挙げられました。災害科学国際研究所では、今後も産・学が連携したセミナー等を開催し、防災・減災・免災を啓発する活動を行ってまいります。



今村教授の講演



会場に配布された「防災クリアファイル」
文責：福谷 陽(寄附研究部門)